府立佐野工科高等学校
校　長　　橋本　敏和

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

産業創造系、機械系、電気系が連携した創造的なものづくり教育により、地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えたものづくりのスペシャリストを育成する。
「『地域の宝』となる！」というスローガンを掲げ、「社会人基礎力（前に踏み出す力）（考え抜く力）（チームで働く力）」の育成と、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。
１　人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と基本的な生活習慣に加え、礼儀や挨拶などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校
２　自ら課題を見つけ、他の人々と協働し、課題解決に主体的に取り組むことのできる創造性豊かな製品開発のスペシャリストを育成する学校
３　生徒一人ひとりを大切にした教育を実践し、生徒、保護者が「入学してよかった」「学んでよかった」「卒業してよかった」と実感できる学校
４　地域の「ものづくり」の発信源となり、地域の住民、産業界から「地域の宝」として信頼される学校

２　中期的目標

１　社会的自立を見据えた基本的生活習慣と規範意識の醸成による自己実現
（1）キャリア教育の観点から基本的生活習慣、社会性、規範意識をはぐくむことにより自己実現を図る。
ア、学校教育自己診断の「学校生活についての先生の指導は納得できる」を令和９年度には、70%以上とする。
（R４　65.6%、R５　71.8%、R６　79.6%）
（2）新たな教育手法（PBL 等）を探求し、スマート専門高校として習得した最先端技術・技能を基礎とした創造力を育成する。
ア、各種コンテスト、大会に積極的に参加し成果を上げる。また、資格取得によりチャレンジ精神と自尊心を育成する
（3）正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。
ア、応募前職場見学、大学、企業等見学への参加者を延べで 450 名以上とする。また、令和９年度までには 500 名以上とする。
（応募前職場見学、大学、企業等見学参加者延べ　：R４　172 名、R５　150 名、R６　575 名）
イ、就職一次合格率 85%を維持とする（R４　88.7%、R５　91.7%、R６　87.5%）
２　確かな学力の定着と学びの深化
（1）教員の授業力を向上し、主体的・対話的な深い学びの実現に向けて授業改善を行い、指導と評価の一体化の観点から学習指導の見直しを行う。
ア、年２回の授業公開週間を設定する。授業実践の共有を推奨し、相互に好事例の共有及び改善点の把握に努める。
イ、授業理解度 78%以上 を維持する。
（授業理解度：[普通科]・[専門科]R４　81.6%・82.2%、R５　85.0%・79.8%、R６　88.8%・81.4%）
ウ、授業アンケート結果による総合（設問１～９）スコアを 3.20 以上を維持する。
（授業アンケートスコア［12 月］：　R４　3.25、R５　3.32、R６　3.26）
（2）ICT（１人１台端末等）を活用した先進的な授業を実践する。
ア、授業で ICT を活用した実践を行う教員の割合 100%を維持する。
イ、生成 AI や仮想空間、最先端技術を活用した教育実践を行う。
３　生徒一人ひとりを大切にした教育の推進
（1）個々の生徒の状況に応じた支援と配慮を行い、いじめの防止、対人関係の課題解決を図り、安全で安心できる学びの場を提供する。
ア、退学率を 1.5%未満、入学満足度を 75%以上、登校満足度を 73%以上、令和９年度までには、入学満足度を 77%以上、登校満足度を 75%以上とする。
（退学率：R４　2.0%、R５　2.2%、R６　.%）（入学満足度：R４　76.5%、R５　78.6%、R６　86.6%）（登校満足度：R４　77.8% 、R５77.6%、R６　81.1%）
イ、支援や配慮を必要とするすべての生徒に「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、一人ひとりの個性に応じた支援と適切な評価を行う。
ウ、不登校の未然防止の取組みの推進と不登校経験がある生徒に対して、個々の状況に応じた適切な支援を組織的に行う。
（2）チャレンジ月間の取組みの充実を図り、生徒の挑戦心と自尊感情を育成する。
ア、令和９年度までに~~は~~、登校満足度 75%以上とする。（登校満足度：R４　77.8% 、R５77.6%、R６81.1%）
（3）ICT 化推進により業務や会議の効率化を行い、生徒とかかわる時間を増やす。
４　地域と連携した開かれた学校づくり
（1）学校説明会等の広報活動により、学校の魅力の発信を効果的に実施する。
ア、オープンスクール等を年１回以上開催し、参加者を 200 名以上とする。
（オープンスクール参加者：R４　357 名、R５385 名、R６212 名）
イ、Web 等の発信を 150 回以上とし、令和９年度には、200 回以上を維持する。
（発信回数：　R４　280 回、R５　300 回、R６　300 回）
（2）「地域産業連携重点型」工科高校として、地域企業や行政組織等と連携してイベント等に参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図る。
ア、新たな企業等連携を１社以上
（企業等連携：R４　24 社、R５　20 社、R６　25 社）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　年　月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

府立佐野工科高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
１　社会的自立を見据えた基本的生活習慣と規範意識の醸成による自己実現	（１） キャリア教育の観点から基本的生活習慣、社会性、規範意識をはぐくむことにより自己実現を図る。	１）・日常的に遅刻、頭髪、服装等についての指導を行う。定期的に全校的な指導を実施し、自己実現のための規範意識の向上を図る。 ・懇談週間では、学年が主体となって家庭と生徒情報を密に交換し、課題の早期発見に努める。	１）・生徒指導納得度 70%以上 ・懲戒件数 30 件以下［31 件］ ・生徒（社会のルールや命の大切さを学ぶ）80%以上［90.1%］ ・保護者（連絡・意思疎通）80%以上［84.3%］	
	（２）新たな教育手法（PBL 等）を探求し、スマート専門高校として習得した最先端技術・技能を基礎とした創造力を育成する。	２）・各種コンテスト、大会に積極的に参加し成果を上げる。また、資格取得によりチャレンジ精神と自尊心を育成する	２）・コンテスト応募、近畿大会・全国大会での入賞　［ロボット相撲他］ ・資格取得数 600 以上［787］(1/31)	
	（３） 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。	３）・企業見学など、仕事に触れる機会を多く設定し、正しい勤労観・職業観の育成を図る。 ・進路講話や職業に関する探究活動を推奨し、主体的にキャリアの育成に取り組む態度を育成する。	３）・応募前職場見学、大学、企業等見学への参加者延べ 450 名以上[575 名] ・就職一次合格率　85%以上［87.5%］	
２　確かな学力の定着と学びの深化	（１） 教員の授業力を向上し、主体的・対話的な深い学びの実現に向けて授業改善を行い、指導と評価の一体化の観点から学習指導の見直しを行う。	１）・少人数展開をしている教科は習熟度別にするなど、各教科で授業改善を行う。 ・オンライン教材等を活用し、社会人として必要な基礎的知識の定着を図る。 ・各教科において「わかる」授業を実施する。 ・行動を指標とした評価を積極的に導入する。	１）・授業理解度　75%以上 ［普通科　88.8%］ ［専門(座学)　81.4%］ ［実験・実習　92.7%］ ・授業アンケートスコア　3.19 以上 ［７月 3.30］・［12 月 3.26］	
	（２）ICT（１人１台端末等）を活用した先進的な授業を実践する。	２）・ICT 機器の活用し、授業の改善を図る。 ・生成 AI や仮想空間、最先端技術を活用した教育実践を行う。	２）・授業での ICT の活用 100%を維持[100%]	
３　生徒一人ひとりを大切にした教育の推進	（１） 個々の生徒の状況に応じた支援と配慮を行い、いじめの防止、対人関係の課題解決を図り、安全で安心できる学びの場を提供する。	１）・「いじめは絶対に許さない」の信念のもと、厳しさの中にも、カウンセリングマインドを持って生徒指導を行う。 ・学習支援や相談機能を充実させ、中途退学者の防止を図る。 ・支援や配慮を必要とするすべての生徒に「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、一人ひとりの個性に応じた支援と適切な評価を行う。 ・不登校生徒等の社会性に不安がある生徒の野外活動を実施する。	１）・退学率 1.5%未満［0.7%］（１月末） ・いじめ重大事象　０件 ・生徒入学満足度 75%以上［86.6%］ ・生徒登校満足度 73%以上［81.1%］ ・いじめ対応満足度 80%以上［87.7%］ ・生徒指導納得度 65%以上［79.6%］ ・生徒相談満足度 60%以上［78.2%］ ・保護者入学満足度 95%以上［96.8%］ ・保護者登校満足度 75%以上［84.2%］	
	（２） チャレンジ月間の取組の充実を図り、生徒の挑戦心と自尊感情を育成する。	２）・ラーケーションと組み合わせて、生徒の体験的な学習の機会を増加させる。	２）生徒登校満足度 75%以上［81.1%］	
	（３） ICT 化推進により業務や会議の効率化を行い、生徒とかかわる時間を増やす。	３）・校内の ICT 環境を整備し、情報共有の効率化を図り、教員の事務負担を軽減する。 ・会議のオンライン化を推進し、教職員の負担を軽減し、働き方改革を行う。	３）・職員会議実施時間 １時間以内 80%以上［95.0%］	
４　地域と連携した開かれた学校づくり	（１） 学校説明会等の広報活動により、学校の魅力の発信を効果的に実施する。	１）・中学生及び保護者のニーズに沿った「オープンスクール」等を年１回以上実施する。 ・Web 等の発信を 150 回以上とし、令和９年度には、200 回以上とする。	１）・オープンスクール等参加者 200 名以上［212 名］ ・Web 等の発信 150 回以上を維持［300 回以上］	
	（２）「地域産業連携重点型」工科高校として、地域企業や、行政組織等と連携してイベントに積極的に参加をする。活動を通して、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図る。	２）・地域企業、事業所等と連携し、ものづくりにおける技術力の向上を図る。 ・行政や民間団体等と連携し、様々なイベントに参加して、ものづくりへの関心を高め、生徒の発信力を高める。 ・地域と連携し、ボランティア活動等を行う。	２）・企業等連携 15 社以上　[25 社] ・地域連携活動取組み件数 ３件以上［12 件］	